

素流協 News

平成19年7月25日
第31号

平成19年7月25日発行・発行所 岩手県素材流通協同組合 盛岡市菜園1丁目3-6 電話 019 (652) 7227 / FAX 019 (654) 8533

平成19年度

第一回 県産材利用拡大 推進需給協議会

平成十九年度第一回県産材利用

拡大推進需給協議会が六月二十五日(月)十三時三〇分から農林会館会議室で開催された。

下山裕司協議会長の「木材をめぐる需要動向はかなり変化してきており、今後は益々外材が入りにくくなるだろう。大型の合板工場や集成材工場は原木を確保するため、自ら素材生産にかかわって行くことも予想される。全国的な材の需要動向や需要側の要求を的確に把握し、迅速に対応していくことが必要である。」との挨拶の後、協議に移り、事務局や各委員からの情報提供、質疑応答がなされた。

一 素流協平成十九年度事業計画について(素流協)

昨年度に引き続き合板工場を主体とした素材の供給を行い(取扱

目標・合板用十四万五千、その他

二万、計十六万五千立方メートル、対前年比一二三%、特に今年度は、

①生産性向上へ向けた取組みとして、林業機械のリース事業、②安定的出荷量の確保としてストックヤード設置、③運送体制のシステム化として素材運搬業者のネットワーク化に取組む。

(質疑) ストックヤードの取組み状況は? また、ストックヤードへ納入したときの価格は?

候補地を2箇所(県南地区、下北地区)考えている。価格については、①ストックヤードにおいては、購入する。②山元から合板工場への運送経費等を差引いた価格とする。の二方法が考えられる。

二 原木等需給動向の見通しについて

(1) 合板用県産材の供給量の実績

推移と将来見通し(素流協)

四月から六月までの実績(一部推定)を昨年度と比較すると、百十一%の伸びとなっており、今年度の特徴は、アカマツの比率(昨年十七%、今年三二%)が増大していることである。

国有林からのシステム販売による丸太が出てくるのは、例年より若干遅れて7月半ば以降となると思われる。

(2) 合板用原木の輸入の現状と今後の見通し(ホクヨープライウッド)

現在合板工場での木材使用量はロシア材が八十%強で、残り二十%が県産材となっている。

現在五%前後であるロシア材の関税が七月から二十%アップされると報道されているように、今後外材の輸入が縮小、更には輸入量ゼロも考えられる中で、各工場とも外材に変わらざる材を探しており、今後、合板の表面に使える国産材が手に入らないことには、商

売が成り立たない状況にある。

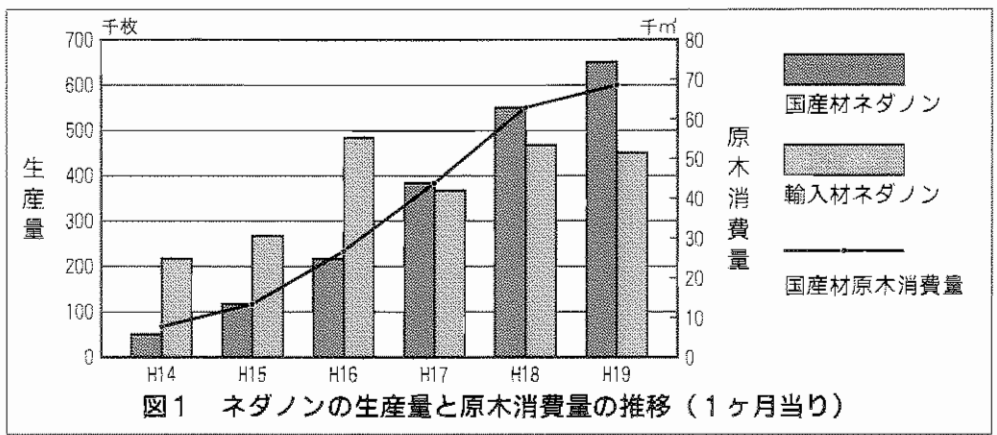
(質疑) 山側で出荷する材を表材用とコアー用に区分して工場に搬入すれば、価格に反映されるのか？
 個人的考えであるが、規格をはっきりとしたもので出荷してもらっているのであれば、価格差をつけてもよいと思う。

(3) 合板製品及び広域における合板用国産原木の需要動向について
 て(東北合板工業組合)

昨年の合板生産は、マスコミ等ではフル生産状況にあるとも報道されたが、縮めてみたら三、二%の伸びにとどまった。

これは、合板工場の乾燥機の能力が大きくなると生産量が伸びないという製造システムによるものであり、十六、十八年度の補助事業では、乾燥機については能力をアップさせることはできたが、乾燥機そのものの新規設置は補助対象とはなっておらず、需要があったにもかかわらず、生産量を伸ばすことができなかった。

ネダノン生産量は、月平均百万



枚まで伸びた。(図1)
 合板の需要は住宅着工数に比例するが、現在の住宅着工数百二九万戸が大幅に増える要素はなく、将来的には百万戸程度に減少することが想定される。将来の合板の

木材使用量は七百万立方メートルになることを常に念頭に置かなければならない。

合板における国産材使用量もようやく百十四万立方メートルまで増えた。林野庁の計画では、これを平成二十七年までに三百万立方メートルにするとしているが、そのためには、現在の住宅着工数があと九年間ぐらい続かなければならず、オールスギとかオールカラマツの合板を開発しない限り、計画達成はむずかしい。

(質疑) 岩手県のスギ、アカマツ、カラマツの3樹種を使って作った、岩手県のみでしかできない特色ある合板は開発できないか？

県産カラマツを使うと一〇〇%国産材の合板ができる。合板原木としてのカラマツ材が生産され、合板工場もあるのは岩手県だけである。このことを活かしてPRしていくべきである。

三 岩手県からの話題提供(岩手県林業振興課)
 (岩手県における十九年度木材

関係事業の紹介)

四 国有林の「素材の安定供給システム販売」の進捗状況について(素流協)

システム販売の契約手続きが、昨年度は国有林、素流協、合板工場の三者間であったものが、今年度は国有林と合板工場との二者間と大きく変わった。

素流協が、合板工場から委任を受けて材の買入れ、運搬を行うこととし、各森林管理署とは七月に入って手続きをすすめることとなる。材が出始めるのは七月下旬頃になると思われる。(表1)

表1 H19年度システム販売量 (m³)

合板工場	ホクヨー プライウッド		北日本 プライウッド	
	下	北	三陸中部	2,000
森林管理署別出荷量	三	八上北	岩手南部	1,900
	久	慈支署	遠野支署	2,000
	盛	岡	岩手北部	1,000
			三陸北部	300
	計	9,600	計	7,200

ヒロシの独白

人の心の移ろいやすさ



この世の中で生きとし生けるもののうち、心（心臓ではなくて、精神の動き）を持ち、考えることができるのは人間だけである。

それゆえに、人間は、生活を営む中でいろいろな場面・場面ですらそれがその局面において最善であると判断した身の処し方を選択する。人間は、“考える葦”であると言われる所以であり、学習や修練、経験の積み重ねによって自らの考えを変化させ、進化させていくのである。

さてここでは、人間というものは、学習や修練、経験の積み重ねによって考え方が変化・進化するということについては一応普遍の真理としておこう。

このような前提を置いて、私はつくづく人間とは、とりわけ最近の日本人は“心の移ろいやすい”

者が多くなったのではないかと考えるのである。

カルロス・ゴーン氏といえは、誰でもが知っている日産自動車社長であり、凶体ばかりがでつかく、経営者不在の「日の丸企業」日産の業績不振という苦境を救い、V字回復を遂げるという成果を挙げた人として有名である。

少し前までは「ゴーンさん、ゴーンさん」の大合唱で、その経営手腕と実績を褒め嘯してとどまる所を知らなかったのが、最近、日産の経営状況に一頃の勢いが見られなくなって「ゴーン神話」を耳にしなくなったばかりか、ゴーン氏の経営姿勢に対する疑問や否定的評価が経済評論家ばかりか日産内部からも出ているという。私流に言えば、当時の日産自動車にゴーン氏無かりせば、今時の

日産の姿は無かったであろう。

現在のカルロス・ゴーン氏に対する評価を見ると、経済評論家の変わり身の早さ、マスコミの付和雷同性と背骨無きくらのような浮遊性が如実に表れた現象、“心の移ろいやすさ”を体現しているといえないだろうか。

ゴーン氏のワンマン経営というけれど、日産には日本人の重役・役員はいなかったのか……、経営陣の自立性と自浄能力の欠如が非難されるべきではないのか。

この“人の心の移ろいやすさ”は、何に起因するのであろうか。独断と偏見を恐れずにいえば、一般大衆はあまり深く考えることなくマスコミの流す偏った一方的・集中的情報に依拠して判断しているのではないかと、私は考える。今は亡き山本夏彦が言った。

「なが年新聞は投書を優遇しているが、あそこに聞くべき意見があったためしがない。戦前新聞が『英米撃つべし』と書いたとき、投書は同じく撃つべしと書いた。投書は掲載されることを欲するから、新聞の意見に反対する説なら誰も投じない。あつても掲載されなかった。掲載されぬ原稿を書いて投ずるものがないことは、今も昔も同じである。……新聞は権威ありげに大学教授のコメントを援用するが、何の教授か書かない。文学部の教授が政治の腐敗を唾棄しても、それは凡夫が唾棄するのと同じである」

この新聞というところを週刊誌やテレビに置き換えてもかまわない。

“日本人の心の移ろいやすさ”は、ますます情報が過剰になる現代においては増進され続けることであろう。

新規組合員紹介

今年度6月末日までに、次の方々
が新たに組合員とられましたの
でお知らせ致します。

平成19年6月末日現在で、組合
員52名、賛助会員13名となってお
ります。

☆新組合員

- 一、住所 大船渡市
会社名 丸昭木材
代表 青砥 昭悦
入会 平成19年4月20日
- 二、住所 盛岡市
会社名 (株)イワリン
代表 下山 裕司
入会 平成19年4月25日
- 三、住所 盛岡市玉山区
氏名 杉澤 幸四郎
入会 平成19年6月18日
- 四、住所 陸前高田市
会社名 遠野林業
代表 遠野 勝郎
入会 平成19年6月22日

スギ樹皮の有効活用

丸太の生産や加工の過程でかなりの量発生するスギ樹皮は、一部堆肥原料や家畜の敷料、畑地の被覆資材などに利用されているが、大部分が燃やされており、常に産業廃棄物処理との関連で問題視されてきた。

先日、環境省から「製材工場等の生産工程で木屑焚きボイラーが利用される場合は廃棄物処理施設とはみなさない。」との解釈が示され(七月五日付)、木屑等の有効利用が進むこととなった。

大量に発生する樹皮を未利用の代替エネルギーとして利用開発することは重要である。

スギ樹皮は、樹皮に多量の水分を含み、形状が不整で、かさばるため、運搬や保存に不便で燃えにくいという欠点に加えて、柔軟性があるため、粉碎機による細粉化が非常に困難である。

岩手県林業技術センターでは、

スギ樹皮を小型ボイラー用の燃料として利用した、木材乾燥システムの確立を目指して、スギ樹皮の

含水率やかさばり低減技術の開発、樹皮用小型ボイラーの開発、樹皮切削粉碎機の開発、木材乾燥システムの実証試験を、岩手大学及び民間企業と共同で実施しており、その成果が期待されている。

冗談欄 年をとったかなア

また「平均寿命が伸びた」との報道に、自分には関係ないと思いたいが、次のようなときに、「年を取ったかなア」と思ってしまう

- ・ のんびんだらりと歩いている女子高生に追いつかない時。
- ・ おじいさんと呼びかけられて、条件反射的に振り向いた時。
- ・ 後輩が定年退職したと聞いた時
- ・ 自分より年上の人がいなくて確かめて、シルバーシートに座る時。
- ・ NHKの懐メロ歌謡番組で自

然と口ずさんでしまう時。

- ・ 医者に「老化現象ですね。」と言われて納得してしまう時。
- ・ あの世へ行つた友人を指折りして数える時。
- ・ 新聞を開いたら死亡記事に目が行き、自分より若ければ少しうれしくなる時。
- ・ 青春のアイドルが吉永小百合だと気付いた時。
- ・ 歌詞をよく覚えているのは青い山脈だけだと気付いた時。
- ・ 墓地や仏壇の新聞広告が気になりだした時。
- ・ 小便のキレがイマイチの時。

お知らせ

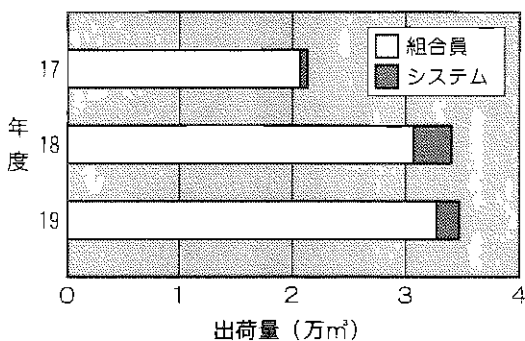
総会で承認された「ストックヤード(中間土場)の設置」について、九月からの開設にむけて準備を進めています。

準備が整い次第、詳細をお知らせします。

☆設置予定箇所(二箇所)

- ① 一関市大東町摺沢地内
- ② 青森県むつ市城ヶ沢地内

【参考資料】4～6月における累計出荷量(合板用)



平成19年度の伸びが小さくなった要因
 ①19年4月の組合員出荷が前年同期より少ない
 ②19年度の国有林システム販売が遅れている

平成19年6月分の販売実績

合板用の会員生産は先月より2,500㎡増え、約13,000㎡となった。出荷先割合はホクヨープライウッド㈱67%、北日本プライウッド㈱33%、また、樹種別割合は梅雨時期になったことからアカマツの割合が5ポイント減少し、その分スギが増えている。

合板用のシステム販売は今年度の出荷がまだなされていないことから約460㎡と少ない量となっている。

合板用以外の出荷は、今回4月分(115㎡)と5月分(275㎡)の計上漏れを追加計上したので、6月分は約1,200㎡と比較的大きな量となった。

累積出荷量の年間計画量に対する割合は22%となり、計画進捗率(25%)に近づいてきている。

(㎡、%)

区分	出荷者	樹種	長級	販売先				累計	割合		目標達成率	19年度計画量
				ホクヨープライウッド㈱	北日本プライウッド㈱	その他	計		長級別	樹種別		
合板用	会員生産	スギ	2.0	2,275	2,275		4,550	10,526	61.3			
			2.1	282	69		351	1,225	7.1			
			4.0	1,919	1,050		2,969	5,411	31.5			
		計	4,476	3,394		7,869	17,162	100.0	52.8			
		カラマツ	2.0	2,123	283		2,406	5,816	90.1			
			2.1	155			155	212	3.3			
	4.0		275	12		287	429	6.6				
	計	2,553	295		2,848	6,457	100.0	19.9				
	アカマツ	2.0	2,627	362		1,989	8,025	90.5				
		2.1										
		4.0	100	165		265	838	9.5				
		計	1,727	527		2,254	8,864	100.0	27.3			
	計	8,756	4,216		12,972	32,483		100.0	26.0	125,000		
	販売システム	スギ	2.0	290	86		376	1,389	69.7			
2.0			78	7		86	521	26.1				
2.0							83	4.2				
計		368	94		462	1,993	100.0	10.0	20,000			
計	9,124	4,310		13,433	34,476		23.8	145,000				
その他	スギ				1,106	1,106	1,467	67.9				
					90	90	683	31.6				
					12	12	12	0.6				
	計				1,207	1,207	2,162	100.0	10.8	20,000		
合計		9,124	4,310	1,207	14,640	36,638		22.2	165,000			

落穂拾い

▽先ごろ、一関市から盛岡市に向かってほぼ北上川に沿って車で廻行した時、この河沿いのそちこちに「水辺林」があるのに気がついた。

水辺林というのは、河川や湖沼の周囲に発達する森林であり、隣接する山腹斜面や丘陵地とは樹種の構成が異なるのである。

水辺林は、山地の溪流周囲では「溪畔林」、平野部では「河畔林」などと区別することもある。

洪水など川の水量変動により水辺の地形は変わる。

地形や地質が変化に富むことが多様な樹や草木の旺盛な生育をもたらしている。

森全体に比べて水辺林は面積的に狭いものの、多様な生態系を生み出す要(かなめ)である。

周辺の森に住む野鳥やシカなどの動物の約七割が水辺を利用してるとされている。

このように水辺林は、多様かつ豊富な生態系を形成していることから、人間をはじめとするこの世の生きとし生けるものに多大の恵

みを与えてくれているのである。岩手県にはいたるところに水辺林、すなわち溪畔林と河畔林が賦存するが、我われはこの「水辺林」に対してもっと関心を持つ必要があるようである。

ちなみに、奥州市を流れる胆沢川の支流方又マ沢に河畔林試験地があるという。

この川辺にはトチノキ、カツラ、サワグルミ、オヒヨウ、ブナ、ミズナラなどの多様な樹種が混交して豊かな自然をとどめる水辺林を形成しているという。

筆者も早い機会にこの河畔林を訪れてみたいと思っている。

